

令和3年度 秋季企画展

かなづ ぶ ぎょう え ど じ だい かなづ  
**金津奉行と江戸時代の金津**

はじめに ～金津奉行とは～

金津奉行※は、慶長18年(1613)に福井藩第2代藩主の松平忠直(1595～1650)によって設置されました。金津奉行は原則として、福井藩士の中でも上級武士の末席である「番外席」の家から選ばれ、金津の町に常駐して九頭竜川以北の福井藩領(川北領)を統治しました。その職務は、戸籍の管理、訴訟、軽罪者の処分、重罪者の町奉行への送致のほか、細呂木・浜坂・権世市野々など、加賀国との国境近辺に設けられた関所や番所の管理でした。

福井藩領と言っても、その領域は江戸時代を通じて頻繁に変動しました。金津奉行が設置された当初、越前国は一国全てが福井藩の領地であったため、金津奉行が管轄する川北領は15万石程度あったと考えられます。しかし、寛永元年(1624)には川北領内に丸岡藩が成立、さらに貞享3年(1686)には福井藩のお家騒動により領地が約半分にされ、川北領には幕府や他藩の領地が入り交じることになりました。このような経緯から、金津奉行が管轄する領地は次第に減少し、最終的には4万5千石程度になったと考えられます。

本展では、金津奉行が活躍した江戸時代の金津がどのような町だったのかを紹介し、金津奉行所の日々の様子や歴代奉行の素顔にも迫ります。

※江戸時代初期には「金津所司代」「金津郡代」など表記に揺れがありますが、本展では「金津奉行」で統一します。

1

江戸時代の金津

金津は現在のあわら市の地区名ですが、明治から平成まで自治体名として存続していたため、その名が示す範囲は様々です。本展では、江戸時代の北陸道の宿場であり、街道沿いに北から北金津町、南金津村、金津新町で構成される範囲を指します。

金津は江戸時代を通して福井藩の支配下にありました。金津の町は、昭和23年(1948)の福井地震で壊滅的な打撃を受け、現在は道路の線形や一部の建物の間口などにわずかに江戸時代の面影を残すのみになっています。資料の面でも、江戸時代前半の金津の様子が分かるものは残されていませんが、安永～寛政年間(1772～1801)にかけて作られたと考えられる「村鏡」や「三金津等明細帳」から、当時の寺社や家の数、店の種類などを知ることができます。

また、北金津については、天保10年～弘化3年(1839～1846)の間に作成されたと考えられる「北金津の家並み図」があり、金津全体としては、明治3年(1870)に作成された「金津分間絵図」(【図1】)からそれぞれ当時の様

子を伺うことができます。

「北金津の家並み図」と「金津分間絵図」は30年ほどの隔たりしかありませんが、激動の幕末を経たことや、後者が居住者でなく土地所有者を記していることから、人名が一致しない家が多くみられます。しかし、どちらも地名を冠する家が多く見られ、村々の活発な取引があったことが伺えます。また、町中で各種物品の買い付け記録が残る「佐野家文書」の記載と一致する店も確認できます。

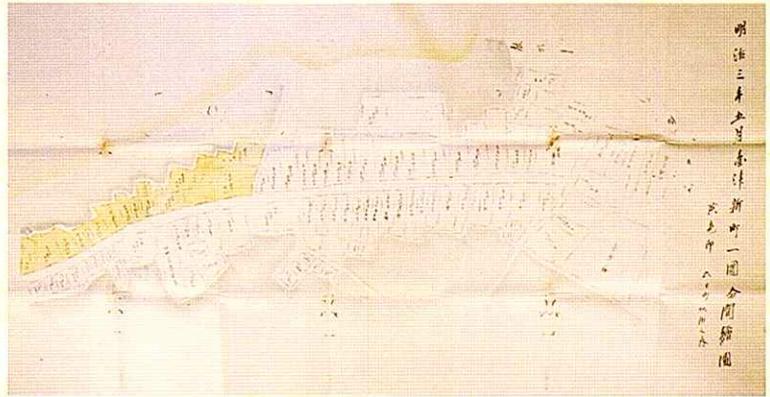


図1 「金津分間絵図(新町一円)」(松平文庫<福井県文書館保管>・後期展示)

## 2

### 金津奉行所について

金津奉行所は、南金津村の北部、現在市姫荘が建っている場所(あわら市市姫2-31-6)にあり、金津奉行が常駐していました。ここは陸運の要である北陸道と、水運の要である竹田川が交わる地点で、川北領を統治する拠点としてふさわしかったと考えられます。

金津奉行所の廃止に伴い安政4年(1857)に作成された「坪数写」から、当時3681.68坪(約110メートル四方)の敷地に、御茶屋、金津奉行の屋敷、役所、下役である受込の屋敷、配下たちの組屋敷21軒、牢屋及び牢屋番の屋敷が建っていたことが分かります。金津奉行所は、現在の迎賓館・公邸・役所・裁判所・社宅・刑務所が一か所に集まった施設だったといえるでしょう。金津の人々は奉行所の存在を誇りに思い、その廃止を思い止まるよう歎願した文書も残されています(【図2】)。



図2 「安政四年御用留」(福井県文書館蔵)にみえる、金津奉行所廃止撤回を求める嘆願書

なお、御茶屋については「安政四年御用留」所収の別の覚書に言及があり、「代々の藩主が領国内を視察する際、休憩宿泊する場所」であったとされています。また、「役所が福井城下へ引き上げ、追々御茶屋等も取り払われてしまう」という記述もあることから、奉行所と並立した施設との位置づけであったのでしょう。御茶屋には藩主の滞在中、豪華な立花も飾られていました(【図3】「瓶花図」)。なお、各建物の配置は『越前国名蹟考』に収められた「金津宿図」の他に依るべき資料は確認できていません。



図3 御茶屋に設置された瓶花図(個人蔵)

## 3

## 金津奉行の仕事

「はじめに」で述べた通り、金津奉行の仕事は川北領の管轄でした。関所や番所の管理が含まれるのは、川北領が越前国の最北部に位置するため、加賀国との国境警護という重要な役目があったからです。越前最北の宿場である細呂木宿は、ここも江戸時代一貫して福井藩の領地であり、関所が設けられていました(【図4】下部に描かれています)。

この他にも、金津奉行は以下のような仕事をこなしていたことが今回の資料から見えてきます。

- ①藩主来訪の際、金津奉行所併設の御茶屋に飾る立花を調達(「瓶花図」)
- ②丸岡藩主の有馬氏や、幕府が派遣する廻国巡見使といった、藩にとって重要な来客がある時、その接待や警備(【図5】「金津御奉行所仙石万右衛門様御出張御宿扣」など)
- ③各種制度の周知や運用(「定(細呂木宿人馬賃銭申渡書)」など)
- ④資金調達(「覚(上納金四両受取二付)」)

このように、金津奉行は現地の責任者として、行政・司法・軍事など幅広い能力が求められていたといえるでしょう。

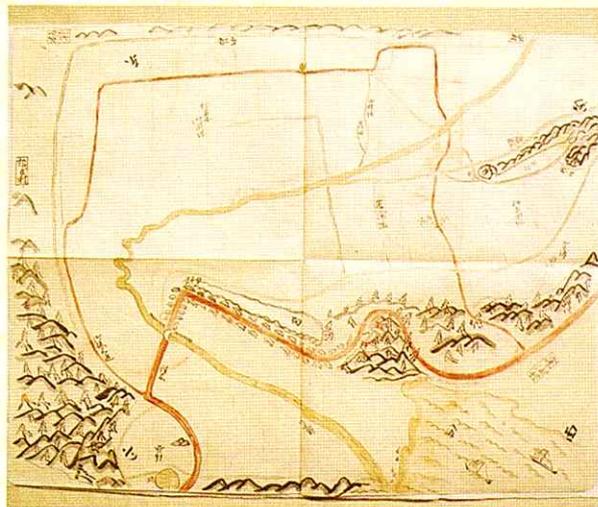


図4 「細呂木村絵図」(福井県立図書館蔵)

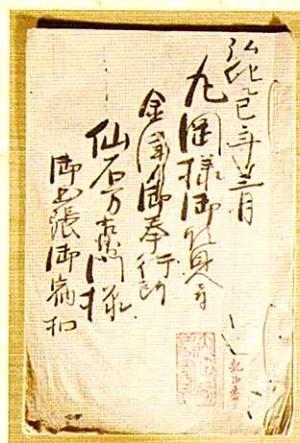


図5 「金津御奉行所仙石万右衛門様御出張御宿扣」(個人蔵(みくに龍翔館寄託))

## 4

## 歴代の金津奉行

金津奉行は慶長18年(1613)に設置され、安政4年(1857)4月に廃止されるまで、約244年間続きました。その間に32代(1人は再任)の奉行が就任しましたが、合計20の家から出ており、特定の家が世襲することはありませんでした。

それは、川北領の統治という重要な任務のため、優秀な人物でなければ務まらないと考えられたからといえるでしょう。福井藩の役職の中で地名を冠するものは他になく、寺社町奉行などと並んで、藩の家老に直属する職であった点からもその重要さが伺えます。

実際、金津奉行職の退任をもって隠居したことが確実な人物(更迭されたり、在任中死去した可能性のある人物を除く)が31人中8人いることは、キャリアの集大成として務めるような難しい役目だったといえます。幕末に藩主松平春嶽を支えた鈴木主税(【図6】)も、短い期間でしたが金津奉行を務めています。

また、16代平本良充が金津奉行退任の翌年、22代荒川十右衛門が退任と同時に、「番外席」から「寄合席」へ家格が上げられており、金



図6 鈴木主税油彩肖像画(越葵文庫(福井市立郷土歴史博物館保管))

津奉行在任時の功績が評価されたものと思われます。なお、この平本家は原則世襲されなかった金津奉行職において、唯一4世代続けて奉行職を務めました(12代良隆、16代良充、19代良郷、25代良高)。良充と良郷は、あわら市北潟の安楽寺に、その菩提寺とは別に墓が建てられており(【図7】)、人々に慕われた奉行であったことが伺えます。



【図7】安楽寺にある平本良充・良郷父子の墓

### 歴代金津奉行一覧

代	姓名	奉行就任	在職期間	知行高	代	姓名	奉行就任	在職期間	知行高
1	森 惣右衛門	慶長18年(1613)	24年超	1,000	17	鈴木 長孝	安永 8年(1779)	約5年	450
2	滝 勘兵衛	寛永14年(1637)	7年超	450	18	渥美 新右衛門	天明 4年(1784)	約18年9ヶ月	250
3	奈良 左近右衛門	正保元年(1644)	6年超	900	19	平本 良郷	享和 3年(1803)	約1年7ヶ月	350
4	松原 角左衛門	慶安 3年(1650)	9年超	1,100	20	荒川 十右衛門	文化元年(1804)	約4年9ヶ月	350
5	秋田 市兵衛	万治 2年(1659)	7年超	1,000	21	海福 久右衛門	文化 6年(1809)	約6年11ヶ月	400
6	長谷部 六右衛門	寛文 6年(1666)	4年超	500	22	荒川 十右衛門 <small>再任</small>	文化13年(1816)	約1年7ヶ月	
7	萩野 小大膳	寛文10年(1670)	約6年	1,000	23	渥美 太郎左衛門	文化15年(1818)	約6年6ヶ月	250
8	大宮 彦右衛門	延宝 3年(1675)	約33年	1,000	24	鈴木 長恒	文政 7年(1824)	約5年4ヶ月	450
9	水野 善左衛門	宝永 5年(1708)	約21年	500	25	平本 良高	文政12年(1829)	約3年3ヶ月	350
10	井上 半大夫	享保14年(1729)	約1年4ヶ月	375	26	白石 十郎右衛門	天保 4年(1833)	約2年11ヶ月	250
11	鈴木 重英	享保15年(1730)	約12年5ヶ月	450	27	水野 主計	天保 7年(1836)	約8年1ヶ月	500
12	平本 良隆	寛保 3年(1743)	約12年9ヶ月	350	28	仙石 万右衛門	天保15年(1844)	約2年8ヶ月	50人扶持
13	岩上 梶大夫	宝暦 5年(1755)	約1年9ヶ月	200	29	津田 弥太六	弘化 3年(1846)	約5年8ヶ月	200
14	荒川 宗右衛門	宝暦 7年(1757)	約5年10ヶ月	300	30	鈴木 主税	嘉永 5年(1852)	約1年3ヶ月	450
15	奈良 権左衛門	宝暦13年(1763)	約5年	300	31	渥美 直記	嘉永 6年(1853)	約2年9ヶ月	250
16	平本 良充	明和 5年(1768)	約10年11ヶ月	350	32	原 平左衛門	安政 3年(1856)	約9ヶ月	150

#### 【協力者一覧】

岩佐實、印牧信明、角明浩、寺井玲子、長野栄俊、能美進、堀井雅弘、松平宗紀、山田裕輝、由水勇  
北潟公民館、福井市郷土歴史博物館、福井県文書館、この他資料をご出品いただいた皆様 (個人/団体 五十音順・敬称略)

(文責:学芸員 林 淳)

## あわら市郷土歴史資料館

### 令和3年度 秋季企画展 「金津奉行と江戸時代の金津」



会 期 令和3年9月18日(土)~11月14日(日) 開館時間 9:30~18:00(最終入館は17:30)  
休 館 日 毎週月曜日・第4木曜日(その日が祝日の場合はその翌日)  
お問 合 せ TEL.0776-73-5158(郷土歴史資料館直通) ✉ maibun@city.awara.lg.jp